

05

リビングフィールド

2024年
5月



スオスダイ！

(こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは、2015年3月に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招聘を頂き、主の導きとみ言葉によってカンボジアの地で宣教活動を継続しています。

日本一時帰国

皆さまのお祈りにいつも感謝しております。4月はクメール正月があり、1年で最も暑い時期でもあります。今年の4月は猛烈な暑さが続き、40度を超す日もしばしばでした。

来月、6月8日から8月5日までの約2か月間、昨年に続き日本に一時帰国します。主日を中心に教会を訪問し、カンボジアでの祝福と恵みを分かち合いながら、祈りと支援のネットワークを広げるためです。準備を覚えてお祈りいただければ幸いです。

日本滞在中の主日の教会訪問予定は既に決まっていますが、平日の祈り会などで、報告や証しの機会を頂ければ、ぜひ伺いたいと思っております。メールでご連絡いただければ幸いです。



4月の日曜学校の様子
イースターの工作を手集合写真

あなたはわたしの魂を死から わたしの目を涙から わたしの足を突き落とそうとする者から
助け出してくださった。命あるものの地にある限り わたしは主の御前に歩み続けよう。

詩編 116 : 8-9

CBUオフィス教会日曜学校

3月、4月も多くの子どもたちが教会に来てくれました。日曜学校は午後2時からですが、多くは1時間以上前から、早い子はなんと、お昼前から教会に来ていました。みんな、教会が大好きなのです。この日の日曜学校で行った工作は、子どもたちの手形を用いた作業でした。絵の具を見たことも使ったこともない子どもたちは、実に興味津々にその活動を楽しんでいました。これからも教会に集う子どもたちが、主にあって喜び、イエス様の愛の中で育まれていきますようにお祈りくださると幸いです。



手のひらに絵の具を塗り
画用紙に貼り付けました。

礼拝での子どもたち



子どもたちの出欠チェック

スクリーンに顔写真が映され、名前が呼ばれます。

教会の子どもたちの存在感は、ますます大きくなっています。活発な子どもたちから、笑顔をもらい、純心さを私たち大人は学びます。そしてイエス様の存在を感じます。

「わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」

マタイ18：5

教会は、ますます元気になっていくでしょう。

最近、礼拝賛美にて子どもたちの声が力強くなってきました。純粹に、ストレートに感情を表す子どもたちの賛美は、本当にパワフルで毎回元気もらっています。更に4月から、新しい試みが始まりました。それは礼拝中の、子どもたちの出欠チェックです。子どもたちの顔写真をスクリーンに映し出し、名前を呼びます。教会に来て間もない子の場合は、名前を呼ぶだけではなくて学年や家族構成などについても聞きます。すると当然、大人たちは子どもたちの名前と顔を覚えることができますし、教会の子どもたちの存在をより、意識するようになりました。



礼拝にて力強く賛美する子どもたち

祝福の分かち合い



近隣の集落から40家族が参加。
お米や調味料を差し上げました。

4月7日（日）の朝、午後の礼拝に先だち、近隣の住民を教会に招いてプログラムが行われました。参加したのは、日曜学校に来ている子どもたちの家族、合計41家族です。皆さん、教会から歩いてすぐの、貧しい集落に住んでいる住民の方々です。前日に教会員のケマさんが、日曜学校の子どもリストを見ながら集落のお宅を一軒一軒訪問し、ご家族に声をかけて下さいました。更に嬉しいことに、村長さんもこのイベントに参加されました。



集まったご家族に
絵を使った福音を分かち合うニバス師

プログラムではお米や調味料などを分かち合った後、C B U理事長ニバス師より、聖書から天地創造やイエス・キリストの生涯など、福音が分かち合われました。ご家族に渡されたのは、日々の生活にすぐに必要なものばかりなので、大きな助けになることでしょう。

教会は、宣教師からささげられた献金を用いてこのプログラムを行いました。すなわち、与えられた祝福を、近隣地域の住民の必要に応じて、分かち合ったのです。約2年前、あの集落から教会に子どもたちが導かれてから、子どもたちを通して、教会と集落の住民の関係が少しずつ作られています。

シンガポール日本語国際教会 イースター礼拝参加

3月31日（日）、昨年に引き続き、IJCS教会（シンガポール日本語国際教会）のイースター礼拝に参加しました。教会員の方々と1年ぶりの再会を喜ぶと共に、カンボジアの恵みを分かち合う機会が与えられました。

この日、教会には新来者を含めて通常の倍以上、100名を超える方々が礼拝に参加し、多くの新来者も与えられました。シンガポールとカンボジア、これからも共に祈り合いながらそれぞれの宣教に励んでいくことを願っています。



IJCS教会（シンガポール日本語国際教会）
イースター礼拝に参加された方々と記念写真

カンボジア女性支援 ミニストリー「希望の糸」



カフェの手芸品販売コーナーにて
「希望の糸」の製品を販売開始

マクラメアートを用いた女性支援ミニストリー「希望の糸」を祈りに覚えてくださりありがとうございます。3月、嬉しい出来事がありました。プノンペンにあるクリスチャン運営のカフェにて、「希望の糸」の製品を置いて頂けるようになったのです。知り合いの宣教師を通して店のオーナーにお願いしたところ、オーナーはマクラメアートのような手芸が好きだそうで、快く受け入れて下さいました。主の導きに感謝いたします。

これまで、「希望の糸」を日本の教会を中心に購入して頂いています。引き続き、日本の教会に広めていながら、プノンペンでも「希望の糸」が広がりますように。そして主の御心ならば、この支援の輪が、世界へと広がっていきますようにと

来主と栄主の学校生活

3月、4月とホープスクールのハイスクール（高校に相当）にてサッカー部の活動が行われ、インター校同士の対抗試合や、トーナメントが行われました。中学3年の来主（中3～高3の4学年がハイスクール）は、チームでは一番下の学年のメンバーでしたが、中心選手として試合で活躍することができました。

4月に行われたトーナメントでは接戦が続き、ホープスクール代表は惜しくも上位入賞はなりませんでしたが、学校のクラスメイトや先輩たちと共に練習に励み、試合でプレーできた経験は、来主にとって大きな財産になったことでしょう。



ハイスクール・サッカー代表チーム
イレブン。（後列左から2番目が来主）

栄主は毎週土曜日、プノンペン日本語補習校に通っています。補習校とは、日本式の授業を通して日本語や日本文化の習得を目的とした学校です。主に、普段インター校に通う生徒たちが学んでいます。

昨夏「海外子女文芸作品コンクール」があり、栄主は俳句部門に応募しました。結果、栄主の作品が佳作に選ばれました。これまで補習校にて、地道に漢字と日本語を学んで来た成果が出たのだと思います。皆さまのお祈りご支援に感謝いたします。引き続き、来主と栄主の学校生活を覚えてお祈りいただければ幸いです。



コンクールの俳句部門に応募し
栄主の作品が佳作に選ばれました。

<祈りの課題>

1. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって成長していきますように。
2. キリングフィールド近くのコミュニティと近隣地域が、福音によって変えられますように。
3. 女性支援活動「希望の糸」が祝福され、ケマさんら女性たちへの支援が広がりますように。
4. 日本一時帰国の準備が導かれ、祈りと支援の輪が広がっていきますように。

嶋田 和幸・嶋田 薫（CBU宣教師）、来主（くろす、15歳）、栄主（えいす、12歳）

（連絡先） Eメールアドレス dekakurosu3927@gmail.com

携帯電話：050-5435-4350（日本から発信可）

（献金振込先） 楽天銀行 ノエル支店（支店番号246）

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

